



「こんにちは 市長です」

3月1日号

新年度の予算は842億円。コロナでもっと減るかな、と心配していたがそうでもなかった。「なるほど、国もやるわい」と思ったのは中小企業へのコロナ禍での配慮である。3カ月間を比べて売り上げが前年の50%以下なら家屋と償却資産に係る固定資産税はゼロ、売り上げ30~50%減ならば1/2減免、当然市税は減る。14億円減になるが、その分は国が補填(ほてん)。飲食店だけでなく中小企業のことも考えている。評価したい。新年度の収入(市税)が33億円減ると知って「借入金を増やさないと帳尻が合わない」と覚悟した。議会に借入金は絶対減らす、と宣言しているのだ。「参ったなあ」と震えた。だが、借入金残高を5億円減らすことができたのである。コロナ禍であったが、いい予算が組めた。

①第2子以降の給食費を全額助成 ②高校生世代まで医療費無料化を始める。長く続くコロナ禍で、各家庭の格差が広がっていると心配していた。言わず語らずのうちに子どもたちにそのままつながっていく。何をやればいいのか考えた末、①と②になった。5時15分に役所が終わると「あなたが残業すると電気まで残業します」と庁内放送がある。私は気に入っている。財政的に余裕がなければ余裕をつくれれば、生み出したもので格差が埋められていけば…。幼稚園、保育園などの経営を民間にお願いしてきた。最近では「木崎あおぞら保育園」が一例だが元気いっぱい運営している。大きな経費節減もできて一石二鳥である。今年は生品・綿打幼稚園を民間にやってもらう。「ぴっころ」など4カ所の福祉作業所も民間で、と考えている。

コロナで国は途方もない借金をした。インフレにしてお金の価値を下げるのか、いや「増税」しかないか?太田は地道に「行革」を続けたい。(2/15記)